

留 学 報 告 書

記入日:2019年12月23日

所属学部／研究科・学科／専攻	経営学部経営学科
留学先国	米国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ペンシルベニア大学 現地言語: University of Pennsylvania
留学期間	2019年8月～2019年12月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	College of Arts and Sciences <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年12月21日
明治大学卒業予定年	2021年3月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input checked="" type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:8月下旬-12月下旬 2学期: 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	24,806
創立年	1740

留学費用項目	現地通貨 (Dollar)	円	備考
授業料	14,895	1,650,000 円	所属学部開講の科目は割引される
宿舍費	5,4200	60,000 円	
食費	2,795	30,000 円	任意
図書費	200	22,000 円	
学用品費	50	5,500 円	
教養娯楽費	1,000	11,000 円	
被服費	300	33,000 円	
医療費	304	33,000 円	
保険費	1,791	198,000 円	形態:
渡航旅費		200,000 円	スタンフォードとの合算
雑費	200	22,000 円	
その他	2,568	286,000 円	General Fee
その他		円	
その他		円	
合計	28,550	3,190,000 円	1usd=110jpy で概算

渡航関連

渡航経路: カリフォルニアからフィラデルフィア

渡航費用

チケットの種類 エコノミー

往路 _____

復路 _____

合計 _____

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

大学側に手配していただいたので詳細は存じかねます。

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

寮

2) 部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数2)

3) 住居を探した方法:

大学のウェブページ

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

ベッドを共有する部屋に住むというのは正直非常に不安でした。しかし、ルームメイトとしっかり会話する時間を設け、コミュニケーションをとり、消灯時間などのルールを決めれば快適に滞在できます。基本的に友人を招くときは1人1部屋にしりと、互いにリスペクトを示すことは肝要です。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会がなかった

利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

利用しなかったのでもわかりませんがオリエンテーションで、学習の悩みや性的暴力に至るまで、様々な窓口が紹介されました。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

夜間は外出しない、危険な区域は立ち入らないなどです。事前に情報はネットで得ていたものの、オリエンテーションで情報が手に入るので特段心配する必要はないと思います。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

何かしらの建物やその周辺では快適にwi-fiに接続できます。

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか? (例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

クレジットカードを常に使用していました

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

日本でしか手に入らないといったものは特にありませんでした。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

明治大学に300万円を上限に、超過分も同時に支払っていただいておりますが、差額は後日明治大学に支払います。

卒業後の進路について

1) 進路
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
外資就活、One career など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
投資銀行と経営コンサルタントを志望しています。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
留学先の環境、であった人によって自身の価値観もあるていど変容するかと思います。競争的な環境に身を置くことで、自身のさらなる成長を求めたいという気持ちが深まりました。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
1 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Multinational Managment	多国籍経営学
科目設置学部・研究科	Wharton School
履修期間	2019/8~12
単位数	1
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	ディスカッション、講義、ケーススタディ(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回
担当教授	Glennon, Britta
授業内容	レクチャーにて国際市場におけるマネジメントの理論や紺瀬ぶ尾を学び、その後ケーススタディや、中間試験にて、講義で扱ったレクチャーを応用していくという流れです。
試験・課題など	中間テスト、ケーススタディに対するエッセイ、グループプロジェクト(プレゼンとファイナルペーパー)
感想を自由記入	経営学部生としては最も興味深い授業でした。レクチャーとディスカッションの混合のような授業でしたので、理論をしっかりと学ぶことに加え、それを実際の企業を扱うケーススタディを通じて分析していくという点が、暗記にとどまらず、思考力を要され面白かったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intoroductory Statistics	統計学
科目設置学部・研究科	College of Arts and Sciences
履修期間	2019/8~12
単位数	1
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャー(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Vekker, Alexander
授業内容	人文科学よりの統計学で。ビジネス的なコンテキストではありません。
試験・課題など	2週間に一回の課題、中間テスト、期末テスト
感想を自由記入	私はあまり数学的な素養がありませんが、教授のパワーポイント外非常に秀逸で、学習しやすかったです。ただ Intoroductory と誤っていますが、かなり範囲が広いので、私見で高得点を取るには相当な学習時間が要されると思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction toPhilosophy	哲学
科目設置学部・研究科	College of Arts and Sciences
履修期間	2019/8~12
単位数	1
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャーとディスカッションが四対一くらいの割合(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Baker, Todd
授業内容	古典的なものから近年の肉食主義者に至るまで、様々な哲学的な紛糾を呼び起こしてきたトピックに対して、教授が解説を加えつつ、学生と共にディスカッションしていくという物です。
試験・課題など	Essayが三枚、小テストが三回、ファイナルペーパー
感想を自由記入	哲学的な問いは概して難解物が多いため、生徒たちは口々に疑問を授業中に発していくのですが、非常に教授の頭の回転が速く、当意即妙な返答を毎回楽しむことができました。個人的に哲学に興味があったので、講義で扱った内容は大方既知でしたが、それでもなお学生との討論を通じて得られるインサイトは非常に興味深いものでした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Cultural Athropology	文化人類学
科目設置学部・研究科	College of Arts and Sciences
履修期間	2019/8~12
単位数	1
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Spooner, Brian
授業内容	世界にあるさまざまな部族を、ケーススタディを通して考察していくという物でした。
試験・課題など	月に一つエッセイ、ファイナルペーパー
感想を自由記入	正直あまり楽しみ切れませんでした。帰納的なアプローチをとっているのが、リーディングを消化している間に、いったいこの部族のシステムが何なのかを体系的に理解することが困難であり、力の入れどころが分からず苦勞しました。ただ、各々の部族のシステムは我々とかけ離れている点で興味深く、西欧的文化や日本の文化等物が、規模の違いはあるにしろ、社会における人々の交流が偶発的にもたらしたドリップのようなものであると感じました。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2017年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	
2018年 1月～3月	
4月～7月	TOEFL 対策開始
8月～9月	
10月～12月	
2019年 1月～3月	1月に語学要件を満たし、そのごエッセイをゼミの先生に添削していただきました。2月に出願
4月～7月	6月からスタンフォード大学に留学
8月～9月	8月下旬からペンシルベニア大学に留学
10月～12月	10月に中間テスト。11月の頭にボストンキャリアフォーラム。12月に試験、ペーパー、プレゼンを含むファイナル

留学体験記

留学しようと決めた理由	<p>大きな理由は二点あります。一点目は競争的な環境に身を置くことで、自己を成長させたかったからです。大学受験の経験から、自己に負荷がかかることにより、知識のみならず精神面が大きく背負うということを学びました。従って、かかる大学群は、その学生たちの優秀さにおいて秀でているという事実そのものを魅力的に感じました。</p> <p>二点目は米国の多様性を肌で実感したかったからです。企業にとって多様性の持つ力というものは凄まじいものです。そうした力を米国企業は利用し、それが世界最大の経済大国の一つの支柱になっているのではないかと考えました。</p>
留学のためにした準備, しておけば良かったと思う準備	<p>英会話の練習をしておけばよかったかなと思います。特段流ちょうに英語を話す必要はありませんが、ソーシャライジングというのは大学生生活を送るうえで不可欠です。ある程度スムーズに会話がこなせた方が、より多くの人と、より深くかかわることができるにつながります。また日々の国際ニュースをチェックするといいでしょ。共通文化を持たない相手にはなにがしかの共通点を作ることがえてして重要であると考えます。</p>
この留学先を選んだ理由	<p>ペンシルベニア大学でなければ留学をしていませんでした。大きく二点理由があります。一点目は金銭面です。トップユニバーシティプログラムによってカバーされているため、少ない自己負担で留学を実現することができます。あまり実家が裕福ではないので、金銭的援助を得られなければそもそも留学が実現できませんでした。</p> <p>二点目はトップクラスの大学に1学期以上留学できるプログラムが非常に魅力的だったからです。先に述べたように、競争的な環境というものの優先順位が高いため、ペンシルベニア大学のカーブシステムなどは魅力的に映りました。</p>
大学・学生の雰囲気	<p>オンオフがしっかり切り替えられる学生が多いという印象です。テスト期間はキャンパス待従の勉強スペースが埋まり、オンキャンパスでの数多くのイベントはいつも盛況でした。とりわけ授業中の学生たちの熱意には胸を撃たれました。授業の内容だけでなく、一つ深い教授の洞察や知識を得られる絶好の機会を、正に生徒が作り出していたのです。授業のクオリティの半分は学生の熱意が作用しているといっても過言ではない、そんな印象を抱きました。</p>
寮の雰囲気	<p>25階建ての寮なので、寮全体関わり合いがあるというよりは、各階で交流があるという形です。月数回ほど階の共有スペースで食事会や、町のレストランへのトリップ等があります。</p>
交友関係	<p>基本的にはオリエンテーション等で何となく知り合った留学生と一緒にいることが多いです。往々にしてアジア人とともにいることが多かったです。互いの文化への共通理解や、儒教的思想、近頃のニュースなどコミュニケーションが取りやすいことが一因として挙げられます。ルームメイトがドイツ人で、その友人とも知り合えたりと、ルームメイトを通じてまた一層輪が広がった気がします。毎週何かしらのイベントがあるので、より多くの学生と交流したいのであれば参加することをお勧めします。またサークル等もありますので興味が合致するものがあれば参加してみるのも手でしょう。</p>
困ったこと, 大変だったこと	<p>毎週のリーディングが多いことが挙げられます。科目自体に興味があっても、必ずしも特定の分野にも興味湧くという訳ではないので、時折リーディングが面倒でした。講義は課題図書を読むことを前提としているので、リーディングを完了できないと、無為に時間を過ごすことになります。</p> <p>加えて、多くの授業で中間や期末テスト、エッセイやペーパーなどの課題が重なるので、その時期はタイムマネジメントが非常に難しかったです。</p>
学習内容・勉強について	<p>多様性をキーワードに履修していました。中でも楽しんだのは多国籍企業マネジメントという授業です。ディスカッションと講義が半々程度で、少し気を抜くと流れについていけなくなったり、ケーススタディではとにかく多くの発言を求められるなど、刺激的でした。またグループプロジェクトでは4でチームを形成し、任意の企業の国際戦略を分析しました。最終的にプレゼンとペーパーを提出します。その過程で、意見の衝突や、相互扶助を通じ、非常に密度の濃い時間を過ごせました。</p>
課題・試験について	<p>元も子もありませんが恐らく日本で課題や試験を受けたとしたら、多量なものは多いものの、理解に苦しむというようなものは一つもなかったと思います。ひとえに、語学力を上昇させることが、それらにおいてよい成績を収めることに資すると思います。</p>
大学外の活動について	<p>フィラデルフィアは芸術の街です。美術館では世界的に著名な画家の著作を間近で官署できますし、博物館等も非常に興味深いものでした。</p>
留学を志す人へ	<p>あなたは留学で何を成し遂げたいのでしょうか。留学は、多くの人にとって日本に留まるよりもストレスの多い生活を送る公算が高いです。つらい時、自分が何をしにその場まで時間と金を費やし来ているかを意識することで、困難に面しても乗り越えられると思います。いい大学ですよ、ペンシルベニア大学は。要件は難しいと思いますが、成功を祈っています。</p>

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業準備	授業準備	授業準備	授業準備	睡眠	読書	課題消化
	授業準備	授業準備	授業準備	授業準備	睡眠	読書	課題消化
午後	読書	授業準備	授業準備	授業準備	就活	読書	課題消化
	授業	授業	授業	授業	就活	読書	課題消化
夕刻	レストラン開拓	授業準備	課題消化	課題章か	読書	ジム	ジム
夜	課題消化	授業	授業	課題消化	キャンパス散策	友人と食事	友人と食事